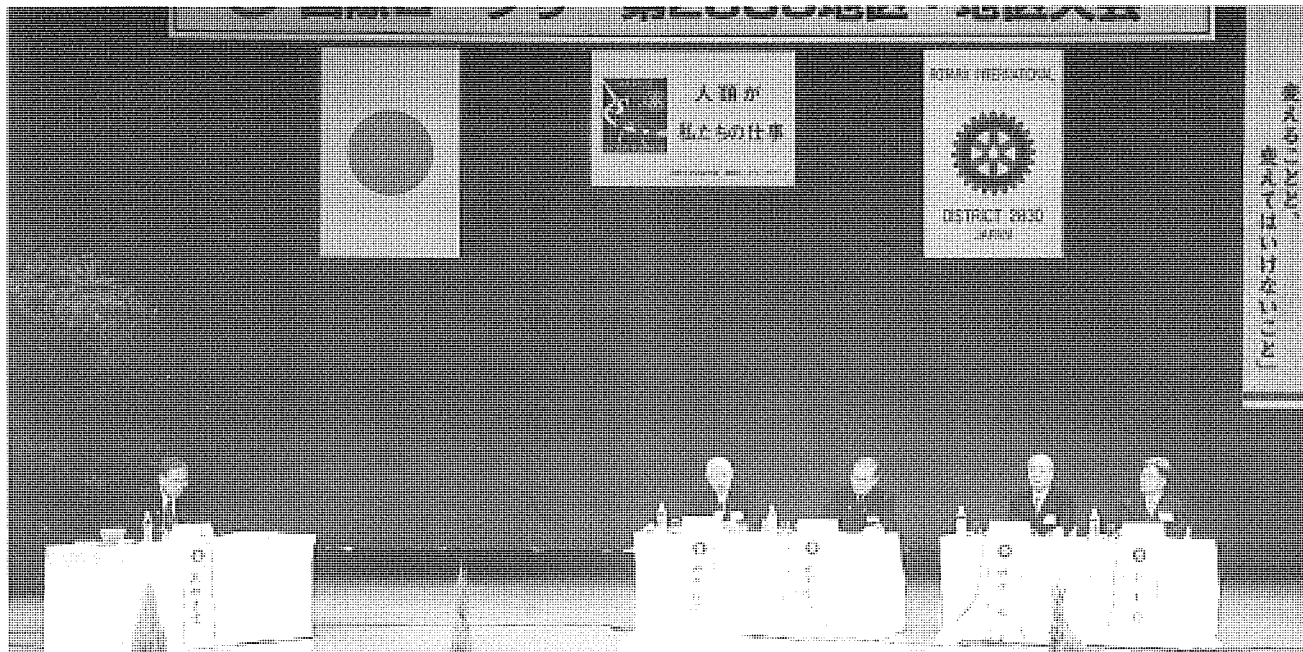


パネル
ディスカッション

ロータリーで

今、変えることと 変えてはいけないこと



司会

第2830地区ガバナー

黒田 正宏 (八戸南RC)
(敬称略)

黒田 さきほどの田中作次RI会長代理の講話と高橋堯昭パストガバナーの記念講演を聞いて「奉仕活動はお金とか、ものだけではない」ということをひしひしと感じました。最初に田中RI会長代理から「パストガバナーとしてのお話をお願いします。

田中作次 ロータリーの素晴らしさはいろいろな角度から見ることができます。キングRI会長が言っておられることを先にお伝えします。「ロータリーの価値は絶大です。ロータリーは人の人生の進路を変えます。各ロータリアンの人生のみならずロータリーから

パネリスト

第2770地区パストガバナー

田中 作次 (八潮RC)

第2500地区パストガバナー

道下 俊一 (浜中RC)

恩恵を受けるすべての人々の人生を変えます。生き方を変えます。私たちの時間、努力、エネルギー、手段、献身を捧げるに値するものであり、人々に出会いの機会を与えてくれます。世界最古の最もすぐれた奉仕クラブの会員になることは特別名誉なことだと思います。私はロータリー最高の時代は未来に存在すると確信しています。私たちはこの地球上の人類の問題を解決するために私たちの力と能力を示してきました。世界中の子供たちの予防接種を実施するに当たって21世紀をロータリー奉仕の全盛期に、そしてロータリー奉仕

指定発言者

第2680地区パストガバナー

田中 毅 (芦屋川RC)

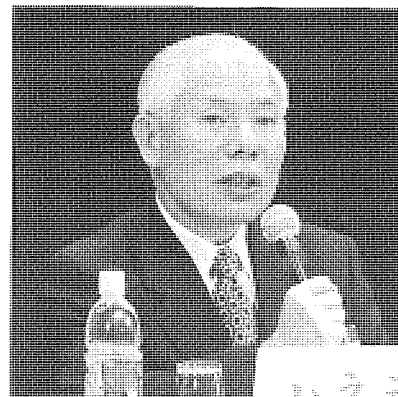
第36630地区パストガバナー

李 東均 (韓国・南浦項RC)

によって人類最高の聖地とするために団結したロータリアンの能力を示して参りました。私には各地の人々がロータリーの輪を人類の希望、援助、問題を解決する人々として認識するようになる日が目に浮かんで参ります。世界の歴史上、最も重要な非営利、非政治、非宗教の組織なることがロータリーの天命であると私は信じます。このように述べております。

国際ロータリーのロータリー財団をなくして国際ロータリーもなと同じくらいロータリー財団も必要なことであります。ロータリー財団は多くの教育的、人道的

プログラムのために今までにロータリーが始まって以来、日本円で約1500億円以上を授与してきました。1985年に発表されたロータリーの最も画期的奉仕事業に2005年までにポリオ撲滅の証明を目標としたポリオ・プラス・プログラムがあります。世界中のロータリークラブは開発途上国における児童免疫付与活動のために当初募金目標の2倍以上で2億4700万ドルの寄付金が集まりました。世界保健機関 (WHO)、米国防疫センター、ユニセフ、そして国際ロータリーの共同活動に世界各国の15億人以上の子供たちを対象にポリオ予防のためのワクチン接種を施しました。



そのおかげでポリオ蔓延国数は125カ国から20カ国に減少し、ロータリーの100周年に当たる2005年までに世界のすべての子供たちをポリオという恐ろしい病気から解放できるためにあと一歩の段階にあり、必ず達成できると信じています。

さて、私たちは何のためにこの世の中に生まれ、何のために生かされているのか自分に問い合わせてみることも必要でしょうか。1日1ドル以下で生活を余儀なくされている人々がこの地球に15億人もおりますが、私たちは恵まれて

いることを再確認しながら感謝の念を持ち、可能な限り世界で援助を求めている人々に対して関心を寄せ、積極的に行動をとって立ち上がらなければなりません。

私たちがこの世に生かされている理由は、感謝へのお返しをし続けることによって人々が住みやすく、より豊かな社会を築いていくことに協力することだと思います。人は生きていく権利を持つと同時に倫理、道徳など人間としてなすべき責務を持たなければなりません。人生の目的は「他人や社会のために尽くすこと」といわれますが、これは社会に対する感謝のお返し、言い換えれば家賃を払うような責務でもあります。

最近、恒久寄金の一種で財団遺贈友の会ができました。これは本人が亡くなったら最低1万ドルを財団に寄付するという誓約書にサインするものです。日本の会員数は約160名に達しています。今後かなりご協力いただけるものと期待しております。よろしくお願い致します。

クラブ強化を進めながらロータリーの本物の姿、本来の姿に立ち返って私たちは他人や社会のためにやるというよりも自分のためにロータリーに一生懸命貢献することが大事だと思います。なぜなら他の人にギブ・アンド・ギブをすることによって自分の精神的な喜びを感じる。ですから両方がよいこととなります。さきほど黒田ガバナーが「奉仕はものや金だけではない」と言われました。心の満足—これが生きているうちの努めだと思います。

道下 田中パストガバナーの話

を聞いてロータリーの未来は開けるなあ、と感じています。国際ロータリーは今、危機に直面しています。その一つは会員の減少です。97年には121万人だったが3年後年には117万人～118万人に減っています。日本でもこの4年間に9千人以上減っております。キング会長の提唱する「ロータリーの全世界での探求一月1人の増強」に私たちは挑戦しなければならないと思います。会員減少で出てくるのはRIの財政危機です。こうした中でガバナー補佐の問題があります。さらには地区の統合推進も出てきています。またロータリーを知らない会員が増えてきています。これは黒田ガバナーがいつも危惧されていることです。



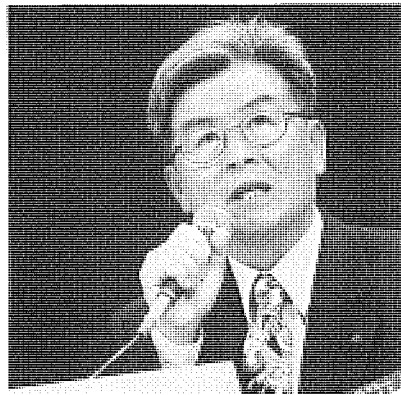
キング会長は私たちに「人類は私たちの仕事」というテーマを与えましたが、公私多方面にわたっての活動を期待しているのでテーマに回答を出すのは皆さんお一人お一人だと思います。ロータリーに客席はありません。今、ロータリーは大きく変わろうとしています。ロータリーは崩れてきていますが、キング会長は「いいクラブをつくろう。献身をしよう。そしてイメージを高めよう」と呼びかけております。ロータリーは難しいところに来ているが、ロータ

リーは人生を変えていく、とロータリー哲学をしっかりと述べられています。決して今の変化を肯定しておられないことに私は希望をもっております。

黒田 李東均さんからはロータリーはこうあるべきだというスピーチを。

李 時代の変化とともにロータリーも変化しなければロータリーは生き残れない、とポール・ハリスは述べています。私なりに考えているロータリーに必要なことを7つ述べます。まず第1は世界人、地球人として新しい人材が必要です。単にクラブ内、地域内にとどまっていなくて地球人的な考え方ができる会員になるべきです。そして新しい人材を会員として迎えるべきです。2つ目はロータリーの会員は地球人として良識と正しい価値観を持つこと。3つ目は人道的プロジェクトを継続し、さらに新しく開発すること。例えばポリオプラスのように全世界に向けたプログラムを成功させることが必要です。4つ目はロータリーの広報を積極的に行い、ロータリーに対する肯定的イメージを育てることです。5つ目はインターネットなどを活用する。国際ロータリーのホームページからダウンロードして情報を自分で集めることが必要です。メールのやりとりで情報交換もすべきです。6つ目はロータリーの精神はともに生きることです。ロータリーの精神が続いているならば、21世紀に生き残ることができます。7つ目は、ロータリアンは職場の指導者として尊敬を受けなければなりません。忍耐の心、学ぶ態度、多様性、親

切、開かれた心、一貫性、誠実性などを持つようしなければなりません。21世紀になっても奉仕というロータリーの使命は絶対変わることがないと思います。



黒田 田中毅さんにはさきほどの道下さんのお話を受けてお願いします。

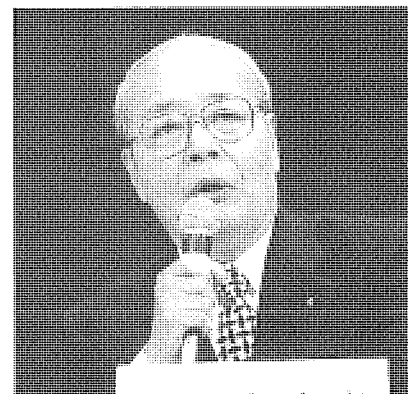
田中 毅 この何年か前からロータリーは変わらなければならぬという声が高まってきました。改革の震源地を探ってみますと、どうやらR Iの本部である感じがします。ロータリーは変わらなければならぬとポール・ハリスが言っているとラビッツァ会長が述べました。果たしてポール・ハリスがどういう意図で述べたかを探っていく必要があります。ほとんどの人が原典を読んでいないので、伝言ゲームのように話の内容が段々と変わってくるわけです。

ポール・ハリスがこのことについて述べたのは2回あります。著書およびシカゴでの25周年記念式典でのスピーチで述べています。実は奉仕理念の改革、変更とは言っていません。ポール・ハリスは決して簡単になんでも変えろ変えろとは言っていないのです。ロータリーの実態を分析しますと、理念、奉仕活動の実践、組織管理

の3つに大別することができると思います。

時代のニーズに伴って奉仕活動の実践分野を変えなければ、だれからも感謝されませんし、地域社会、国際社会のニーズに従った奉仕活動をするというロータリー本来の趣旨からもはずれることとなります。また組織管理の方法に関しても常に能率とか経済効果を考えていながら改善を加えていかないとたちまち制度疲労を起こしてくるわけです。そう言った意味で2つに関してはどんどん変える必要はあろう。しかし、理念は簡単にはそうはいかない。理念とは哲学であるとロータリーで定義しています。すなわち万古不変のものでなければなりません。

ロータリーの綱領が「有益な事業の基礎として」で始まっていることはロータリーの目的は職業奉仕にあるといえます。さきほど道下パストガバナーが言いましたように決議23—34では、2つのモットーをロータリーの哲学と位置づけています。私たちの心のなかには自己の心と利他の心があるという2つの心が常に葛藤を繰り返している。それを和らげるロータリーの哲学がはっきり示されています。それは社会奉仕と国際奉仕の活動の実践です。



私が一番心配しているのは道下パストガバナーも言われましたように、R I理事会が決議23—24を使用停止にしないかということです。もしもそれが使用停止になれば個人奉仕の原則がなくなってしまう。職業奉仕が否定され、さらに個人奉仕の原則が崩れた組織を果たしてロータリーと呼べるでしょうか。

ロータリーが他の奉仕団体と決定的に異なる点は、職業奉仕を前提とする組織であること。職業奉仕の前提条件は、一人一業種に基づく職業分類制度と事業上の発想の交換を前提にした週1回の例会であることを忘れてはなりません。奉仕活動の実践や組織管理の方法はどんどん変えるべきであったと

しても、ロータリーの真髄は職業奉仕にあるという一線だけを順守すべきであります。ロータリーをボランティア組織に変えたいならば、既成事実を積み上げて、堂々とそのことを提案して十分議論を尽くしたうえで、規定審議会の審判を仰ぐべきであります。

黒田 内容の密度が濃くて簡単に応答しても無理なのであとでまとめさせていただきます。皆さんのクラブにのちほど日本語の手続要覧が届くと思いますけれども、それを読んで自分たちのクラブではどのように対応していくかを本日の4人のスピーチを参考にして「自分たちの歩む方向」を選択していただきたいと思います。

私自身としては、ロータリー財

団の遺贈友の会や世界平和奨学生プログラムについてその素晴らしさを積極的に皆さんに説明すべき



だったと反省しております。いずれにしてもロータリーの創立の理念、綱領は絶対変えてはいけなと思います。これからロータリーの情報を投げかけて次の規定審議会に備えたいと考えております。